

江崎萌子 安達真理

(ピアノ) (ヴィオラ)

デュオリサイタル

Piano × Viola

2020年

12月4日(金)

マチネ 開場 13:30/開演 14:00

ソワレ 開場 18:30/開演 19:00

入場料：会員4,500円/一般5,000円/

学生2,500円 (全席自由席)

<プログラム>

レベッカ・クラーク：モルフェウス

シューベルト：アルペジオーネ・ソナタ

フランク：ヴァイオリン・ソナタ(ヴィオラ版)

*プログラム等は、やむを得ない事情により変更になる場合がございます。

二人の優れた美的感覚を持つ音楽家が
紡ぐ詩的で美しく、哲学的なプログラム——

今回初共演となるピアニストの江崎萌子さん。

初めてお会いしたとき、そこに漂っていたのは、まるで旧友との再会のような気配。

そんな屈託のない朗らかさと隠しきれない知性を纏った彼女とお送りするのは、

ヨーロッパの香りが今にも目の前に花啓くような詩的なプログラム。

ふっと全てを忘れて、音の世界に酔いしれていただけたら嬉しいです。(安達真理)



安達真理 & 江崎萌子

デュオリサイタル

2020年
12月4日(金)

マチネ 開場 13:30/開演 14:00 ソワレ 開場 18:30/開演 19:00
入場料：会員4,500円/一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

ヴァイオリスト安達真理とピアニスト江崎萌子のデュオが実現!



安達真理 (ADACHI Mari) Viola

現在東京を拠点に、ソリスト、室内楽奏者として活躍するほか、国内オーケストラへも客演首席奏者として多数出演している。

東京、ウィーン、ローザンヌにてクラシック音楽の研鑽を積み、2013年からインスブルック交響楽団にて副首席奏者を2年間務めた。近年は、クラシック音楽にとどまらず、現代音楽、そしてポップミュージックまで、ジャンルを問わず積極的に活動の幅を広げている。

2019年には「熊本城ホール開業記念公演 Ryuichi Sakamoto Presents:Reconnect -熊本と東北をつなぐ-」の公演で、坂本龍一、藤原真理とピアノトリオを演奏。その模様はNHK-BSプレミアムで放送され、話題となった。

2016年より、バーヴォ・ナルヴィ率いるエストニア・フェスティバル管弦楽団に参加しており、パルス音楽祭、BBCプロムス公演、ヨーロッパツアー、来日ツアーで演奏するほか、CDのレコーディングにも参加。来日ツアーでは、各地で行われた全てのプレコンサートにおいて、五嶋みどりとモーツァルトの二重奏曲を披露した。2018年には自身初となるソロアルバム『Winterreise』をリリース。2019年には東京オペラシティ文化財団主催「B→C」に出演し、好評を得る。以降も精力的にヴァイオリサイタルを開催し、ユニークなプログラムでヴァイオラの魅力を伝えている。

また、新進気鋭の次世代型アンサンブル Ensemble FOVEの創立メンバーとして、オリジナルプロジェクトに出演するほか、2019年にはEnsemble FOVE初のオリジナルアルバム『ZINGARO』をリリース。また、米津玄師、宇多田ヒカルなどの楽曲にも演奏で参加している。(敬称略)



江崎萌子 (EZAKI Moeko) Piano

パリ・フィルハーモニー大ホールにて、パリ管弦楽団プレリウドコンサートにソリストを務めたのははじめ、これまでに日本、フランス、ベルギー、ドイツ、オーストリア、イタリア、パキスタンにて演奏する。シャネル・ビッグマリオン・デイズ2018アーティストとして2018年東京・ネクススホールにて全六回のソリサイタルを行うと同時に、同ホームページ上に三回にわたりコラムを掲載。2017年福岡にて大山平一郎氏指揮、モーツァルト二台のピアノのためのコンチェルトを師匠上田晴子氏と共演したほか、東京交響楽団、Orchestre symphonique et lyrique de Nancy等と共演する。2019年第8回ヴェローナ国際コンクール(イタリア)第2位およびクラシックソナタ賞、女性演奏家賞受賞。第26回エビナル国際コンクール(フランス)第4位、オーケストラ賞、現代曲賞受賞。国内では第2回桐朋ピアノコンペティション第1位、第4回東京ピアノコンクール一般部門第2位、第80回日本音楽コンクールピアノ部門入選などの受賞歴を持つ。室内楽にも積極的に取り組み、2016年ウィーンにてアルバン・ベルク弦楽四重奏団チェロ奏者ヴァレンティン・エルペン氏と共演。ラヴェル晩年の地モンフォル・ラモリ(フランス)でのラヴェル音楽祭、Music Dialogueデスカノワリシリーズ、シャネル室内楽シリーズ等に出演する。Music Dialogueアーティスト。桐朋女子高等学校音楽科首席卒業後、パリス・コントルム音楽院、パリ国立高等音楽院にてテオドール・パラスキヴェスコ、フランク・ブラレイ、上田晴子の各氏に師事し、2018年優秀な成績で修士課程を卒業。現在ライブツィエ・メンデルスゾーン音楽音楽大学演奏家課程にてゲラルド・ファウト氏のもと研鑽を積み、またメナヘム・プレスラー、マリア・ジョアン・ピレシユ各氏の薫陶を受ける。2019年度ヤマハ音楽振興会音楽奨学支援奨学生

美竹サロンではお馴染みになりつつある安達氏だが、彼女のヴァイオリン演奏の特長は、明るく、屈託がなく、気さくな人柄とは裏腹に、静かに、超越的に、瞑想的に、私たちの本源の世界へと誘ってくれる。そこで私たちは、しばしその安らぎを愉しんだ後、演奏が終わり、現実に戻ってみると、そこにはいつもの安達真理スマイルがある、そんな感じなのだ。

江崎氏の登場は2回目となるが、軽妙洒脱の技とでもいうのだろうか、そのスケールの大きな演奏に脱帽である。彼女の繊細で知的なタッチからは、独自の哲学が薫ってくるのだ。

安達氏、江崎氏、彼女たちに共通して言えることは、イマジネーションの豊かさ、優れた美的感覚、そして繊細なニュアンスとでも言うのだろうか、今回はそんな美意識の高い二人の音楽家がセットにならないければ、実現できないプログラムが実現することになった。

英国のヴァイオリン奏者で女性作曲家のレベッカ・クラークのモルフェウスはギリシア神話に出てくる夢の神、夢や眠りに誘うという意味を持つ。あらゆる人物に変化し、夢の中にも登場する神だそうで、神秘を感じられずにはいられない作品だ。

さらに、夢の中に誘うかのようにシューベルトのアルペジオネ・ソナタが始まることになる。最も叙情的な名曲中の名曲だが、奏者の感性が素直にあらわれるので、弾き手を選ぶと言わざるをえない。

クライマックスとなる選曲は、フランス系ヴァイオリン・ソナタの最高傑作といわれるフランクのヴァイオリン・ソナタである。

ゆったりとした夢のような印象で始まり、果てしなく芸術の深みが広がり、そして輝かしい天国的なカンでフィナーレを迎える。

これをヴァイオリンではなくヴァイオラで演奏する。

ヴァイオラとピアノの愛の語り合いをイメージさせるような、ノスタルジーに溢れ、フランスの独特な“粹”も感じさせるこの曲を、安達氏と江崎氏のどんな“粹”によって表現されるのかも聴きどころとなっている。(美竹清花さん)



日本のトップクラスの若手演奏家が、

こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

美竹清花さんが追求する“本物の音楽”は、

演奏者と参加者とわたしたちの、

三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき
サロン・メンバーズ
追加募集中!



誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社 ILA (美竹清花さん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (平日10:00-18:00)

070-2168-8484 (時間外可)

Fax 03(3409)0188

